

組織目標評価報告書（令和4年度）

部局名： **医学部医学科**

部局長名： **豊岡 伸一 医学部長・
医歯薬学総合研究科副研究科長**

目標・取組	目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>・医学科における教学マネジメント整備として、医学科プログラム評価委員会との連携を強化する。学生の学修成果に関する各種データを踏まえた教育の内部質保証サイクルの恒常化を図ることを検討する。また、令和5年に受審する医学教育分野別認証評価に向けて、自己点検評価書を作成する。</p> <p>・入学者選抜に関するマネジメントの一環として、地域枠学生を確保するため医学科の取り組みを広く情報発信し、志望者増加を目指す。</p> <p>・地域枠入試の説明を高校の個別訪問を含め実施し、地域や高校ニーズの調査に関する検討を開始する。</p> <p>・これまで取組んできた新人教員への能力開発・研修を発展的に継続するとともに、中堅層・マネジメント層の教員に向けてオンデマンドFDコンテンツの制作を行い、Society5.0時代における個別最適な教員養成を図る。</p> <p>・医療系学部を超えた多職種連携教育の推進を目的としたカリキュラム設計等(1～2年次)の検討を開始する。</p> <p>・研究統計分析パッケージ利用促進のための教育コンテンツを拡充する</p>	<p>・教学マネジメントにおける内部質保証サイクルの恒常化及び実質化として、2022年度はプログラム評価委員会を合計2回開催するとともに、教務委員会並びにカリキュラム委員会など関連する委員会も各11回開催し、各委員会間の連携強化を図った。また、令和5年に受審する医学教育分野別認証評価に向けて、自己点検評価書を作成した。</p> <p>・文科省「ポストコロナ時代の医療人養成拠点形成事業」に採択され、新たな地域医療人材育成の仕組みを構築することになった。11月には、文科省高等教育局医学教育課長による本学医学教育施設の視察並びに当事業のキックオフシンポジウムを開催し、学内外から多数の関係者が参加し、本事業に関する意見交換を行った。</p> <p>・5月にオンデマンドFDプログラムを開催し、36名の教員が受講した。また、医療系他部局との連携により、「夏の合同FD・SD」を開催し、受講者34名中11名が医学系からの参加であった。併せて教育コンテンツ制作スタジオを開設し、Society5.0時代における個別最適な教員養成の促進に繋がった。</p> <p>・医療系学部における部局を超えた多職種連携教育については、医療教育センターとの連携により検討ワーキンググループを設置し、これまでに8回の会議を開催した。</p> <p>・Stataの導入を受け、学部、大学院、教養教育におけるStata利用促進のための教育コンテンツとセミナーの充実を図った。</p> <p>・その他、年度内に公募された、文科省の「医学部等教育・働き方改革支援事業」に申請し選定され、令和5年度から実施される共用試験の公的化に向けて必要な学内の整備を行った。</p>
②研究領域	
関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>医歯薬学総合研究科(医学系)に統合</p> <p>岡山大学はSDGs推進研究大学である。加えて岡山大学病院は、臨床研究中核病院・革新的医療技術創出拠点病院(橋渡し研究支援機関として)・がんゲノム医療中核拠点病院であり、病院と連携しながら研究を進めていく。</p> <p>① SDGs事例集の充実を図る</p> <p>② 橋渡し研究プログラムを推進し、学内外からシーズを募り、優れたシーズを発掘する。</p> <p>③ 科研費の獲得数の増加のため、予備添削を組織的に行う。応募資格者のリストを作成し、資格者には必ず科研費を応募してもらうよう働きかける。</p> <p>④ 学内外の共同研究を促進するため、プレインストーミングなどのシンポジウムを開催する。</p> <p>⑤ Top10%論文、Q1ジャーナル論文、国際共著論文の重要性について構成員に周知する。</p>	<p>医歯薬学総合研究科(医学系)へ記載</p> <p>①SDGs事例については医歯薬学総合研究科から59件の応募があり、ホームページ上で公表している。</p> <p>②橋渡し研究プログラムを推進し、学内外からシーズを募り、優れたシーズを発掘してきた。成果として、学内外から応募のあったシーズA 73件、preF 18件、シーズB 4件、シーズF 1件、シーズC(3) 1件、シーズC(4) 2件の計99件を審査し、シーズA 25件、preF 9件、シーズB 4件、シーズF 1件、シーズC(3) 1件、シーズC(4) 1件の計41件を岡山大学拠点シーズとしてAMEDに公募、ヒアリング等の支援を実施した。</p> <p>③科研費の獲得数の増加のため、医療系等研究開発戦略委員会で、予備添削を組織的に行い、添削を受けた数とそこから科研費獲得に至った例、応募資格があるにもかかわらず前年度応募をしていなかった者に働きかけ、科研費獲得に至った例を相当数得た。岡山大学から関連病院に異動になった客員研究員に積極的に科研費に応募してもらい相当数の獲得を得た。</p> <p>④プレインストーミングは2022年8月最後の土曜日に行い、3年ぶりの対面での開催で多数の出席者を得て盛会となった。異分野の情報共有ならびに共同研究の促進の役割を果たせた。</p> <p>⑤教授選考の際、Top10%論文、Q1ジャーナル論文、国際共著論文のデータがURAによってチェックされるようになり、構成員に質の高い論文業績が重要であることが周知されるようになった。</p>
③社会貢献(診療を含む)領域	
関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>・オープンキャンパスを含めた高大連携事業の推進(入試倍率3.0倍以上)</p> <p>・デジタルを活用した教員・学生からのCOVID-19関連最新情報の継続的発信と啓発活動</p>	<p>2022年度の医学科オープンキャンパスは、オンライン形式で開催され、高校生の参加者は約400名であった。しかし、入試倍率の目標達成では、長引くコロナ禍による高大連携事業の伸び悩みや、配点を変更した前年度の入試倍率5.5倍並びに一般枠募集定員の削減等の影響もあってか、今年度は2.8倍と志願者数の減少が見られた。</p>
④管理運営領域	
関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>・デジタル技術の活用による会議並びに管理運営業務の効率化</p>	<p>2022年度は、部局マネジメントへのデジタル技術活用推進策として、毎月の会議(医学部運営会議、医学系・医学科会議、教務委員会等教学関連会議)の積極的なオンライン開催と短時間化を図り、全72会議中89%をオンラインで開催した。併せて、上記オンライン会議における配布資料のウェブ配信を行い、紙資源の節約にも努めた。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。